

各 位

会 社 名 株式会社エイアンドティー
 代表者の役職氏名 代表取締役社長 磯 村 健 二
 (コード番号：6722)
 問 い 合 わ せ 先 専 務 取 締 役 黒 澤 研 治
 電 話 番 号 0 4 5 - 3 1 7 - 1 2 5 2 (代)

平成 20 年 12 月 期 の 中 間 期 ・ 通 期 の 業 績 予 想 修 正 に つ い て

平成 20 年 12 月 期 (平成 20 年 1 月 1 日～平成 20 年 12 月 31 日) の 中 間 期 お よ び 通 期 に お け る 当 社 グ ル ー プ お よ び 当 社 の 業 績 予 想 に つ い て、平 成 20 年 2 月 13 日 付 「平 成 19 年 12 月 期 決 算 短 信」 に て 発 表 いた した 予 想 額 を 下 記 の と お り 修 正 いた します。

記

1. 平成 20 年 12 月 期 中 間 期 業 績 予 想 の 修 正 (平 成 20 年 1 月 1 日～平 成 20 年 6 月 30 日)

(1) 連結中間期

(単位：百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	中 間 純 利 益	1 株 当 た り 中 間 純 利 益
前 回 予 想 (A)	3,660	250	238	135	21 円 58 銭
今 回 修 正 (B)	3,336	153	145	76	12 円 19 銭
増 減 額 (B-A)	△ 323	△ 96	△ 92	△ 58	—
増 減 率 (%)	△ 8.8%	△ 38.6%	△ 39.0%	△ 43.5%	—
(ご参考) 前中間期実績 平成 19 年 6 月中間期	3,857	492	484	82	13 円 20 銭

(2) 単独中間期

(単位：百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	中 間 純 利 益	1 株 当 た り 中 間 純 利 益
前 回 予 想 (A)	3,257	235	223	127	20 円 30 銭
今 回 修 正 (B)	2,948	112	104	52	8 円 42 銭
増 減 額 (B-A)	△ 308	△ 122	△ 118	△ 74	—
増 減 率 (%)	△ 9.5%	△ 52.1%	△ 53.2%	△ 58.5%	—
(ご参考) 前中間期実績 平成 19 年 6 月中間期	3,464	449	441	57	9 円 27 銭

2. 中間期業績予想修正の理由

当中間連結会計期間において、販売を見込んでいた臨床検査情報システムの案件が下期へキャリー (約 150 百万円減) したことに加え、電解質関連 (電解質ユニット・臨床検査試薬) の OEM 先への販売が、期初の予想を下回る見込み (約 130 百万円減) となったこと等により、売上高は減少する見込み (約 323 百万円減) であります。利益面におきましても、減収の影響を受けて、営業利益及び経常利益とも減少する見込みであります。

NEWS RELEASE

3. 平成 20 年 12 月期 通期業績予想の修正（平成 20 年 1 月 1 日～平成 20 年 12 月 31 日）

（1）連結通期

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回予想(A)	7,524	620	600	330	52円74銭
今回修正(B)	7,200	420	400	220	35円16銭
増減額(B-A)	△324	△200	△200	△110	—
増減率(%)	△4.3%	△32.3%	△33.3%	△33.3%	—
(ご参考)前期実績 平成19年12月通期	7,467	786	769	276	44円15銭

（2）単独通期

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回予想(A)	6,705	570	550	302	48円35銭
今回修正(B)	6,350	340	320	175	27円97銭
増減額(B-A)	△355	△230	△230	△127	—
増減率(%)	△5.3%	△40.4%	△41.8%	△42.1%	—
(ご参考)前期実績 平成19年12月通期	6,675	693	676	219	35円06銭

4. 通期業績予想修正の理由

臨床検査情報システムは、上期から下期へキャリアした案件に加え、新規分も寄与し、期初の予想を上回る水準（約120百万円増）を見込んでおりますが、上期と同様に電解質関連（電解質ユニット・臨床検査試薬）のOEM先への販売が、期初の予想を下回る見込み（約230百万円減）であることに加え、下期に見込んでおりました検体検査自動化システムの大型案件が来期へキャリア（約170百万円減）となったこと等により、売上高は減少する見込み（約324百万円減）であります。

利益面におきましても、減収による減益、また、研究開発費への投資が増加（約50百万円増）し、販売費及び一般管理費が期初の予想より上回るが見込まれることから、営業利益（約200百万円減）及び経常利益（約200百万円減）とも減少する見込みであります。

以上

（注）上記の業績見通しにつきましては、現時点で得られた情報に基づいて作成しており、実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる場合があります。